



①まるきん農林でアイガモの世話（青垣中）②スイーツチェリッシュでラベル張り（柏原中）③キリン堂で商品の整理（春日中）④JR 柏原駅で切符の回収（氷上中）⑤竹田保育園で園児と遊ぶ（市島中）⑥わんわん牧場で商品の整理（和田中）⑦協栄日産自動車で自動車整備（山南中）

地域に学び、ともに生きる

トライやる ウィーク

今年で、16年目を迎える"トライやる・ウィーク"。281事業所の協力のもと、生徒たちはそれぞれの場所で、「生きる力」を学びました。

6月1日から6月8日にかけて、市内各所で「トライやる・ウィーク」が行われました。

市内の中学2年生705人が、それぞれの事業所で職業体験をし、社会のルールや、労働の厳しさ、人との関わり方の大切さを学びました。

この体験は、今の自分を見つめ直し、将来の自分を考える貴重な時間になりました。

生徒たちを温かく見守り、ご指導いただいた事業所のみなさん、地域のみなさん、本当にありがとうございました。

市長からのメッセージ

【こちら市長執務室】



「高齢者あんしん見守り隊」が発足しました

地域の事業所のみなさんのご協力により「丹波市高齢者あんしん見守り隊」が発足しました。

事業所のみなさんが、高齢者のお宅訪問時に異変を感じたときには、市の「丹波市高齢者あんしんセンター」へ連絡を行っていただけるようになります。

市では、今後も、高齢者世帯の安否確認をスムーズに行える体制づくりを推進します。



「高齢者安心見守り隊」にご協力いただいた事業所のみなさんです

「テーマ」「認定」ども園 幼保一元化の必要性

育の現状、また、市がおかれている状況と認定こども園の必要性についてご説明します。

1 点目に、国が定めている「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の内容は、ほぼ同様です。これは、0歳から5歳までの就学前教育・保育は、一元のものとして子育てを考えるべきであり、今日まで、それぞれの発祥の根本が異なること、すなわち、幼稚園は文部科学省の所管で就学前教育の場として、また、保育園は厚生労働省の所管で保育に欠け

る家庭の幼児を保育する場として分離されて来たものであると考えています。

2 点目には、丹波市のような過疎地域では、子どもの数が減少し、現在ある幼稚園13園、保育園15園それぞれが、園児の減少により小規模化が進んでいます。都市部においては、待機児童が依然として多く存在しますが、丹波市の状況は全く正反対です。整理統合を推進し、効率的な運営を図り、適正な規模で集団教育・保育を維持していかないと十

分な教育・保育効果が保てなくなる恐れがあります。

このことから、10年・20年先を読み、今の段階で構築すべき新しい行政システムとして「認定こども園」を推進すべきであると考えています。

一昨年、国会では「地域主権改革一括法」が可決されたところですが、将来に向けて新たな行政組織を導入し、国の権限とお金を地方に移譲する制度が検討されているところです。もし、それが実現され

れば、丹波市はどうなるのでしょうか。国の権限等が地方に移譲され、自己決定の度合いが高まることは、同時に、責任の増大を意味します。さらに一層、先を見すえた行政運営を行うことが不可欠となるのです。加えて、「行政」「地域」「個人」が自分たちの住むまちを自分たちで守り発展させる力を今からつけておくことが重要となります。

現在、全国で認定こども園の数は兵庫県が最も多く、丹波市も積極的に事業を推進しているところがあります。その理由は、これまでお伝えしたように、10・20年先を読んだうえで、「認定こども園」の推進は避けて通れないものと考えているからです。今までに経験のないことを率先して行っているため、幾多の困難がありますが、市民のみなさんには、施策の趣旨をご理解いただき、ご支援をいただきますようお願いいたします。

特に、「認定こども園」の法人経営関係者のみなさまには、日ごろの運営に対し、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

将来にわたって、丹波市の子どもたちがのびのびと健やかに成長できる環境を創造していけるよう、これからも果敢に挑戦して参ります。